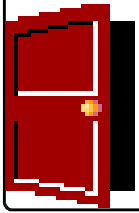


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No 100(最終号)

桑村小学校令和6年3月11日

文責 校長 渡邊 衛

ついに令和5年度『読書活動への扉を開く』最終号!! ～これまでたくさんの応援をありがとうございました～

令和5年度の読書通信『読書活動への扉を開く』が、皆様方の応援のもと、ついに100号を迎えました。これまでたくさんのご理解とご協力をありがとうございました。最後に、皆様方から寄せて頂いた感想と校長からのコメントを載せ、これまでの活動を振り返って読書通信を終えたいと思います。

◆【1年生保護者の感想】の紹介

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

6年間、現在中学2年生の息子も桑村小学校に通っていましたが、下の子供が入学してびっくりしたのは、校長先生自らが入学式の時に、一人一人に手作りの「葉(しおり)」を作って渡してくれたことです。考えてみれば、校長先生から葉(しおり)をいただいたあの時から、娘の読書活動はスタートしたのだと思います。「お母さん、これは何に使うの?」「本を読んだところにはさんで、また続きを読みやすくするためのものだよ。」「そうなんだ。じゃあ帰ったら読んでみよう。」校長先生の葉(しおり)がきっかけで、我が家の読書が始まりました。本当にありがとうございました。(1年生保護者より)

※文章を読ませていただき、昨年の入学式の様子が蘇ってきました。(ああ、そうだ。子供たちは、満面の笑みで葉を受け取ってくれたなあ)早いもので、もう1年が経とうとしています。1年生はとても健やかに成長しました。教室をのぞいて、読書を楽しんでいる姿をよく目にします。とても嬉しく思います。これからも大きく成長されますことを楽しみにしています。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

第100号を迎えられるとのこと、とてもすごい記録だなと思います。なかなか更新後すぐ読めず、まとめ読みになってしまうことが多かったですが楽しませていただきました。ありがとうございました。

今年度1年生になった我が子は同じ保育園から入学するお友達がおらず不安でしたが、素敵な桑っ子のみなさんや先生方のおかげで楽しく過ごせているようです。入学前は保育園の同級生のほぼ全員が通う東小に興味がありました。入学後しばらく経ってふと「桑村小でよかった」と言い出したことがあり、びっくりすると同時にとてもうれしかったことを覚えています。

読書に関しては、読み聞かせでなく自分で読むスタイルでも飽きずに続けられる時間が増えてきた気がいたします。読後にどんな話だったかをと聞くと内容を上手に説明してくれるようにもなりましたし、話の筋を読む力がつき、初めて見たアニメのストーリーの結末を途中で予想して教えてくれそれがぴったり合っていたこともありました。お友達とのやりとりや読書活動を通してこれからどんな子に成長していくのか、楽しみつつ見守っていきたいと思います。(1年生保護者より)

※「桑村小学校でよかった」というお子さんの声を届けてくださり、とても嬉しく思いました。100号もの通信を発行できたのは、桑村小学校の子供と保護者の皆さんに読書の楽しさとすばらしさを伝えたかったからです。読書は、人生を豊かにするものだと思います。どうかこれからもお子さんと一緒に読書を楽しんでいただきたく思います。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

昨今の世の中、ペーパーレスになる中で、紙媒体である「お便り」はたいへん貴重だと感じています。読書通信だけではなく、クラスの時間割など。スマホでいつでも手軽に見られるのはありがたいことですが、私自身としては子供が持ってきてくれる「お便り」が好きです。桑村小学校に入学して早一年、いろんなことを学び、経験し大きく成長しました。苦手な勉強にも取り組み、他学年との交流にも触れ、今まで以上に活発になり、おしゃべりにもなりました。幼稚園時代に比べ、学校内での様子を見るのが少なくなりましたが、子供自身から教えてくれる情報は、微笑ましく笑えます。先生たちの気さくな声かけ、地域の皆様方の応援、この上ないありがたさを感じ、残り5年間を「豊かな感性」で培っていただきたいと思います。

追記、本のおもしろさと楽しさを思い出させていただいた校長先生、たいへん感謝しています。娘同様、私もこれからいろいろな本との出会いを求めていきます。(1年生保護者より)

※読書通信を読んでもいただきとても嬉しく思います。また、お子さんから学校のことをいろいろ聞くことができることは素敵なことです。どうかこれからもお子さんと共に、素敵な出会いを求めて読書を楽しんでください。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

家に帰ってきて気がつくとき本を読んでいた。学校でもたくさん本を借り、2週間に一度町の図書館へ行くのもとても楽しみにしています。学校から妹のために借りてきてくれることもあります。兄の姿を見て、年中の妹も一緒に本を読む習慣ができました。私が本を読むのがあまり好きではなかったのですが、今になってもっと読んでおけばよかったなと思うことがあります。桑村小学校の読書活動への取組、本当に感謝しています。ありがとうございました。(1年生保護者より)

※家族の皆さんで読書を楽しんでいる様子を伺うことができ、とても素敵なことであると感じます。下のお子さんがお兄さんの姿を見て、読書を楽しむようになったことはとても微笑ましい姿ですね。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

最後ということで感想を書かせていただきます。一年を通して「親子読書の会」が本当に助かりました。私たち保護者は、函南で育ってきていないため、右も左もわかりません。校内に入るのは、参観日ぐらいのイメージだったので、他の学年や保護者がどういったことをしているのかがわかりませんでした。しかし、「親子読書の会」でいろいろな先生から子供のがんばっている様子を聞いたり、読書会を通して子供を伸ばすポイントを知ることができました。たいへん助かりました。(1年生保護者より)

※「親子読書の会」にいつもお越しく下さりありがとうございました。親子で楽しく読書を楽しんでいる姿を目にする度に、とても微笑ましく感じられました。これからもどうか親子で読書を楽しんで欲しいと思います。(校長より)

◆【2年生保護者の感想】の紹介

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

読書があまり好きではなかった娘も、図書室や図書館で本を沢山借りるようになりました。親子読書会も大好きでした。1年生の時には文章問題を泣きながら解いていたが、今では文章問題が大好きになりました。沢山の本を読む事で、知識と理解力がとてもついたと思います。読書の大切さを学ばせていただき、ありがとうございました。(2年生保護者より)

※読書活動を通して、「読解力」が身に付いてきたことが伺えます。「親子読書会」への参加、ありがとうございました。親が子供と一緒に読書を楽しむ時間を見出すことはなかなか容易なことではありません。これからも親子で読書を楽しんでいただけたらと願います。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

校長先生、2年間たいへんお世話になりました。私は函南に引っ越してきて2年が経ちました…が、もう5～10年は過ぎているような感覚です。初めての小学校、新しい家、新しい家族、勉強、出会い、全てが新しい環境でしたが、子供が自分の意思で毎日、強く希望をもって学校へ学びに行くのは、温かい校長先生をはじめ、深い愛情をもった大人が集まる居場所があるからだと確信しました。たいへんお世話になりました。(2年生保護者より)

※昨年度からスタートした読書通信に対して、とても多くの声を届けてくださりありがとうございました。なんとこの2年間で、30件を超える感想や意見をお寄せいただきました。もう感謝の気持ちでいっぱいです。この読書通信に対して感想や意見をいただけたことは、私の読書活動への取組の意欲化へとつながっていきました。どうかこれからも学校の教育活動に対して応援をよろしく願います。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

早いもので入学して二年が経とうとしています。何もかもが初めてで、生活に慣れることに一生懸命だった1年生のときと比べて、今ではいろいろなことに自らチャレンジしたり、感じたこと、考えたことを自分の言葉で伝えることができるようになったりと、成長する姿を見ることができてとても嬉しく思います。それも、校長先生をはじめ先生方が、この豊かな自然環境の中で、様々な体験を通して子供たちの感性を大切に育ててくださったおかげだと心から感謝しています。

大好きな活動の一つに「親子読書郵便」があります。いつも「お母さんの笑った声が好き!」と言ってくれる我が家ですが、おもしろさを伝えようと描いてくれた絵や紹介文を見て、幸せな気持ちになりました。また、「お気に入りの一冊をあなたに読書推せん文」でも、自分の思いを伝える楽しさを知って、お気に入りの本を見つけると借りてきて、紹介してくれるようになりました。そんな子供の小さな変化に成長を感じ、とても嬉しく思っています。これからもたくさんの体験をしながら、心も体も大きく成長してくれることを願っています。(2年生保護者より)

※温かなメッセージを寄せてくださりありがとうございました。「親子読書郵便」や「お気に入りの一冊をあなたに読書推せん文」での親子のやり取りの様子を微笑ましく感じました。また、中学1年生のお兄さんには、いろいろな場所で出会ったとき、明るい笑顔で「校長先生、…」と声を掛けてもらいます。優しい心遣いに嬉しく思うと共に、大きな成長を感じています。そして、これからの活躍を楽しみにしています。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

上の子は1年間、下の子は2年間、たいへんお世話になりました。校長先生のおかげで本を読む大切さ大事さを学び、二人とも読むことが好きになりました。下の子は、まだまだのところはありますが…。これからもたくさんの素敵な本を読んでいきたいと思えます。

校長先生へ、お時間があるときに桑村小学校の子供たちに「おすすめの本」を紹介しに来てください。ありがとうございました。(2年生保護者より)

※読書が好きになったことを嬉しく思います。これからもどうか親子で読書を楽しんでいただけたらと思います。「『おすすめの本』を紹介しに来てください」というお誘いの言葉、とても嬉しかったです。いつまでも応援しています。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

100号発行ありがとうございます。息子は「100号おめでとうありがとうございます。すごいですね!」とコメントしていました。我が家ではリビングに本棚が移ったり、図書館に定期的に本を借りに行くようになったりと変化がありました。

本を読むことは大切と色々な角度から考えさせられました。そして、考えを巡らせると、両親をはじめまわりの大人がしっかり子どもを見守ることが情緒成長の土台になるなど私の中で結論が出ます。声をかけられたら目を見て返事をする、本人のタイミングを待つなど、基本的なことがバタバタ生活しておろそかにしていたなど反省します。

読書通信は行動を見直すいい機会になっていました。(2年生保護者より)

※読書通信を読んでもいただきありがとうございました。また、「親子読書の会」へも参加いただきありがとうございました。リビングに図書が置かれていることは、家族の皆さんで本のことを話題にすることができるといって素敵なことだと思います。我が家では、プレイルーム(小さな子供が遊ぶスペース)に絵本から文芸書、新書等いろいろな図書を配架しています。孫たちが遊びに来たときに手に取ってもらえたら嬉しいです。(校長より)

◆【3年生保護者の感想】の紹介

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

読書通信100号、おめでとうございます。校長先生の熱意に後押しされ、子供の読書冊数が、この2年は大きく増えました。そして、母親の私も常にバッグに入れ、持ち歩き、隙間時間にスマホを手にはせず、本を開くようになりました。

今は、本屋さんへ行き、親子で新しい本を探すのが楽しみになっています。中学生の長女とは、お互いに良かった本を交換し合ったり、感想を言い合うことが多くなりました。校長先生の熱意は、桑っ子だけでなく、私たち家族にも伝わっていました。2年間、本のおもしろさを伝え続けてくださりありがとうございました。今後も読書を楽しんで生活していきたいと思っています。(3年生保護者より)

※親子で読書を楽しんでいる様子が伝わってきました。とても温かいご家庭の様子に心が春の陽のようにほんわりしました。素敵なメッセージをありがとうございました。中学生のお嬢さんとのやりとりがこれからも楽しく続けられると素敵ですね。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

読書に我が子がこんなにのめり込むなんてと驚いています。しかも前期は、学校内で一番!「親子読書の会」も夜の学校を利用してなんて、自分が小学生のときには考えもしなかったので、毎回ワクワクしながら参加していました。親子の会話にも自然と読んだ本のことや本から知り得たことを一生懸命に伝えようとしてくれたりして、読書の力ってすごいなと感じました。

先日、夕日が雲の切れ間からきれいに見えた日、

「雲がなければもっときれいに見えたのにな」

と、私がつぶやくと、

「かあか、雲があってもきれいじゃん。黒いところがあるから赤いところがきれいに見えるんだよ。」

と言われ、桑村の豊かな自然の中で育ってきた表れなのかなと感じ、心が温かくなりました。読書や桑村での生活で、本当に我が子たちの感性が豊かになってきたことをとても嬉しく感じます。

校長先生、100回も発行してくださりありがとうございました。そして、先生方、1年間、たくさんの本と出会わせてくださりありがとうございました。(3年生保護者より)

※素敵なメッセージを寄せてくださりありがとうございました。お母さんとお子さんの夕日を見てのやりとりから、とても豊かな感性が育まれていることを私も強く感じ、とても嬉しくなりました。また、「親子読書の会」にも参加いただき本当にありがとうございました。どうかこれからも親子で読書を楽しんでいただきたく思います。(校長より)

◆【4年生保護者の感想】の紹介

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

子どもたちが本に接するための様々な仕掛けや時間をありがとうございました。読書通信を通じて学校でどんな取り組みが行われているのかを知ることが出来ました。時には、私自身が気づかされたり、学ばせていただいたこともありました。わが子はまだ「大切な一冊」の本には巡り合えていない様子ですが、夢中になれる大切な一冊に巡り合って欲しいと思います。ありがとうございました。(4年生保護者より)

※これまで読書通信をお読みくださりありがとうございました。お子さんが「大切な一冊」

に出会えることを私も楽しみにしています。それがきっかけとなり「本の世界」が大きく広がっていくことと思います。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

子供たち、先生、父兄私たちの思いを繋いで下さっていたと感じております。100号にも至る読書通信、気づきと思い出と感動を有難うございました。(4年生保護者より)

※「豊かな感性」を育む手立ての一つとして読書活動を推進してきました。これまでたくさんの応援をありがとうございました。さて、「感性」を育むには、本物に触れることが大切です。読書とともに歌唱や演奏からも多くの感動をえます。創立150周年の式典では、子供たちに歌のすばらしさを感じさせていただきありがとうございました。私自身も大きな感動をえました。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

これまで子供たちの為に、読書に関する色々な取り組みやメッセージをありがとうございました。文字を書いたり本を読んだりする習慣が薄れてきている時代ですが、私自身も読書の大切さを今改めて感じています。

これからも子供と本屋さんや図書館に足を運び、たくさんの本に出会いたいと思います。子供たちの世界がどんどん広がっていくと嬉しいです。(4年生保護者より)

※今の時代、デジタル化が進み、なかなか文章に接する機会が少なくなっていることを私も感じています。でも、思考を働かせ、そこから想像したり創造していくことがこれからの時代でも大切なことだと考えたとき、そこには「読解力」を身に付けることが必要となります。子供たちの成長にとって、読書活動は大きな可能性を秘めています。これからもどうか親子で読書を楽しんでいただけたらと思います。(校長より)

◆【5年生保護者の感想】の紹介

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

授業参観に行くと、教室内の掲示物が変わっていることに気付きます。その時折の「詩」や学習内容に添うものであったりと、子供たちが触れ、感じ取ることを大切にされた先生方の取組が伝わります。この数年間で、図書館や本屋さんに行く回数も増え、子供たちの興味のあるもの、好きな本などがわかるようになりました。図書室に入る機会があり、普段子供たちがどのような本を読んでいるのか、人気なシリーズものはどのようなものかなどを知ることができました。校長先生をはじめ、他の先生方にも「おすすめの本」を紹介いただき、本屋で探してみようかなと思います。子供たちや私たち親にも、たくさんのメッセージをありがとうございました。(5年生保護者より)

※学校での取組をよく見てくださることにお礼申し上げます。「詩」については、「お気に入りの一冊をあなたに 読書推せん文」でテーマとして取り上げ、全校でそれぞれの子供が自分で選んだ作品の良さに気づき、伝えました。言葉って、不思議ですね。詩のような短い文章から、たくさんのことがイメージできるのですから。どうかこれからも読書を楽しむ中、想像力を育てて欲しいと願います。(校長より)

◆【6年生保護者の感想】の紹介

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

読書通信100号発行達成、おめでとうございます。校長先生の「本、読書」に対する熱い思いが毎回伝わってくる内容でした。昨年度の6年生が「図書リーダー」として活動する様子を見ていたので、現6年生の「図書リーダー」も活躍できたのだと思います。やはり、継続することは大事ですね。たいへんだとは思いますが、何らかの形で桑村小学校の読書活動が引き継いでいっていただければいいなと思います。(6年生保護者より)

※「読書活動推進リーダー」に対する意見を寄せていただきありがとうございました。校長(学校図書館長)直属のプロジェクト・チームとして組織し、子供自らが読書の楽しさを桑っ子へと広げていくことをねらい、様々な取組にチャレンジしてきました。保護者の方に認めていただきましたこととても嬉しく思います。継続していくことは容易なことではありませんが、発展的に持続可能なものへとつなげていきたいと考えます。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

立派な賞状とメッセージをいただきありがとうございました。何度となく一人一人に贈ってくれた校長先生のメッセージは、これからも子供たちの心に残り、今後も読書を推進する活動が続いていくことと思います。小学校を卒業しても子供と一緒に読書を楽しんでいきたいと思えます。(6年生保護者より)

※感想を寄せていただきありがとうございました。読書は、「生活に役立つ」というよりは「人生に役立つ」ものといえるのではないのでしょうか。これからもお子さんと一緒にどうか読書を楽しんでいただきたく思えます。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

このお便りを弟と一緒に読んできて、本に関心をもつことができました。私が通っている中学校には、朝読書の時間があるのですが、あまり関心がありませんでした。図書館に置かれている本を適当に借りて読んでいました。しかし、このお便りを読んだからは、書店に行き、自分のお気に入りの本を買うことができ、朝読書の時間が楽しみになりました。この先も本が私にとって身近な存在であるようにしたいです。校長先生からののがきすごかったです!ありがとうございました。(6年生姉より)

※お姉さんからの感想、たいへん嬉しく思いました。本校児童(弟)と一緒にこの読書通信をお読みいただいたこと、感謝の思いでいっぱいです。そして、何よりお姉さんが読書に関心をもっていただいたことをとても嬉しく感じます。本当にありがとうございました。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

校長先生。学校の事を一生懸命考えてくださった結果が発行数につながり目に見える形で残していただいた事、感謝です。すみません。今更ですが、初投稿です。私は子供の頃から字を読む・本を読むことが苦手というより好きではありませんでした。長文を見たらすぐに諦めます。読書という括りで考えると種類は違いますが、昔から説明書を読むことは苦にはありませんでした。疑問に思えば説明書を開き、解決した際の達成感や次に繋がっていくからだと思います。

何事もきっかけが大切なんだと思います。そのきっかけの読書への入口がこんなにも学校で開かれてる事はとても大事だと思います。「読書活動の扉を開く!」や「親子読書会」を通じて、学校教育目標の「夢に向かい感性を育む桑っ子」は確実に育っていることだと思います。読書の事だけではなく教育に対して考えさせられる文章も載っていて考えさせられる事もありました。

みなさんが、感受性から感性に変換できる豊かな心の持ち主になってなっているよう卒業生の親として思うと同時に自分もそうでありたいと思えます。ありがとうございました。(6年生保護者より)

※これまで本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をありがとうございました。いよいよお子さんが本校を巣立つのですね。最終号で貴重なメッセージを寄せていただきましたこと本当にありがたく思えます。どうかこれからも桑村小学校を見守っていただきたく思えます。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

桑っ子の成長と読書愛を支える「読書活動への扉を開く!」、令和6年度第98号を読み終え、心からの感謝の気持ちをお伝えしたくなりました。

校長先生の「読書活動推進リーダー」の取り組みに触れ、子供たちが主体的に読書に関わり、それが学びや感性の豊かさに結びついていく様子に感動しました。特に、令和4年度から始まった読書講座や、「エンジョイ読書」を広める取り組みが、児童

たちの読書への意欲を醸成していることが素晴らしいと思います。

自然体験と読書活動の連携、それぞれの学年での定着度調査結果の分析、校内の児童が自ら本を手に取り、楽しむ様子など、読書活動の一環としての「楽しい」が学びに繋がっていることが感じられました。我が家でも、読書推進リーダーに立候補したことや、校長先生から本を借りてくる様子など、校内の活動が家庭にも波及し、読書が家族の共通の楽しみとなりました。また、感受性と感性の違いについての指摘も、深い考察を感じ、共感しました。校長先生のご尽力により、読書が単なる学習ではなく、感性や豊かな人間性を育むものとなっていることを改めて感じ、心より感謝しています。校長先生、ありがとうございました。

そして最後に、この桑村小学校へ来てくださり、本当にありがとうございました。
(6年生保護者より)

※温かなメッセージを本当にありがとうございます。この2年間、桑村小学校の子供たちと過ごした日々は最高のものとなりました。桑村小学校で学んだ子供たちが、この学び舎で過ごした経験をこれからの生活や人生にいかにかかしていくのがとても楽しみです。また、地区で催し物が開催されたとき、声を掛けてくださりありがとうございました。子供たちが地域で活躍している姿を拝見し、皆さんと一緒に頑張って応援することができたこと、とても嬉しく思いました。これからも桑村小学校を温かく見守ってください。よろしくをお願いします。(校長より)

そして、最後に、

◆【本校職員の感想】の紹介

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

「読書活動への扉を開く」第11号で、中高生の頃に読んだあやしい探検隊シリーズについて書きました。毎月行われた「親子読書の日」の時間を自分も読書を楽しむ時間にしようと思い、会議室で本を探すと、「あやしい探検隊北海道物乞い旅」と出会うことができました。毎回玄関で皆さんをお迎えしながら、久しぶりにあやしい探検隊の世界を楽しみました。毎日忙しく、本を読む時間が減ってしまいましたが、「親子読書の日」が自分にとっても本と親しむ大切な時間となりました。

(本校職員より)

※「親子読書の会」では、夜の時間帯にも関わらず多くの子供や保護者の対応をしていただきありがとうございました。月に一度開催した「親子読書の会」をご自身も楽しんでいただけたことは嬉しかったです。是非、来年度も継続していただけたらと願います。

(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

校長先生、たくさん読書の大切さについてお便りでたくさんお知らせしてくださりありがとうございました。子供たちと一緒にお便りを読む中で「校長先生の目標を達成しようとする行動力がすごい。」と話題になるくらい、校長先生のこのお便りは読書の大切さだけでなく、色々なことを教えてくれたものだと思います。

低学年は絵本、中学年から高学年は何となく絵本から離れていくような気がしていました。しかし、子供たちと一緒にマルベリーさんの読み聞かせに参加する中で絵本はいくつになっても読んでみると（読んでもらおうと）不思議と本の世界に入り込んでいると10分間があつという間でした。このような共有の時間を過ごすことで穏やかな時間を過ごすことができました。6年生に最後の読み聞かせをしてみたいなと思いました。

また、読書推進リーダーを任せていただき、子供たちは本の大切さをさらに実感することができたと思います。子供たちと一緒に作りあげていくプロジェクトがある桑村小学校はすてきな学校だと実感しました。先生から子供へ、子供から子供へ、子供から家庭へ読書活動がじわじわと広がっていました。これからも読書を大切にしていきたいと思いました。(本校職員より)

※先生の教室に置かれた絵本『きみにありがとうのおくりもの』(宮野聡子作・絵 教育画劇 2020年7月7日)を読んで、私もその絵本を購入すると共に、『あなたにあいたい』(宮野聡子作・絵 教育画劇)と『いちばんしあわせなおくりもの』(宮野聡子作・絵 教育画劇)そして、『あなたのすてきなところはね』(玉置永吉作、えがしらみちこ絵 KADOK

AWA)を購入し、読みました。私は、先生から絵本のすばらしさを教わりました。ありがとうございます。これらの絵本は、大好きな娘と孫たちに贈りたいと思います。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

これまでの教員生活で、今年ほど読書について考え、子どもたちと取り組んだ年はありません。週に何度も図書室へ行き、子どもたちと色々な本を手に取りました。自分の感動を伝えることがどれだけ重要なのかも痛感しました。校長先生には何度も図書カードをいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。(本校職員より)

※学校体制で「読書活動」を推進できたことが大きな成果につながったものと思われま。本校の子供たちの「感性」を育むということを最上位の目標に設定し、子供、職員、保護者、学校運営協議会委員(地域住民)等が協働で取り組んだことがすばらしい取組となりました。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

マルベリーさんによる読み聞かせ、保護者の方による読み聞かせ等、たくさんの方にご協力をいただき、とてもありがたいです。そのおかげで、子供たちは本に触れる機会がたくさんあり、読書に親しむことができます。また、桑村道場でも、地域の方の温かいご指導を受け、とてもしあわせだなと感じました。ありがとうございました。(本校職員より)

※本年度着任した職員が「幸せ」だと感じることのできる桑村小学校は、なんて素敵な学校なんでしょう。これからも学校、家庭、地域社会が「幸せ」だと思える学校づくりに取り組んでいきたいと思。 (校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

桑村小学校の子どもたちが読書に親しんで2年。私は児童委員会活動で昼の放送に立ち合うことがあるのですが、この2年で子どもたちのスピーチがとても上手になったように思います。集中して読むことが話すことにつながっています。そこで、来年度も引き続き読書活動を進めていくのに「チェーン読書」を取り入れるのはいかがでしょうか？1冊の本を読み終えたら次の人に回して、全校で同じ本を読む共有体験です。小規模校だからこそできる挑戦かなと思います。(本校職員より)

※素敵な提案をありがとうございます。本校ではこれまで「親子読書郵便」や「友達読書郵便」を行うことで、読書の楽しさを広げてきました。次は、先生の提案された「チェーン読書」を取り入れることで、ますます読書の楽しさが広がっていきそうですね。子供たちの取り組む姿を想像するとワクワクしますね。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んでの感想

この2年間、子供たちは読書に触れ、感性を豊かにしたと思います。桑村小学校では、四季折々の教育活動があります。春はお茶摘み、山々が芽吹く頃には原生林探検、夏はすいか、秋は野菜の収穫、運動会、持久走記録会…など、季節の変化を感じ取り、自分の思いを感じ取ることができました。もう一つは、読書です。校長先生のおかげで、子供たちは町の図書館に行く機会や読書推せん文コンクールへの参加の機会などを得て、本との関りを深くしました。中でも、親子読書会は親子で本を読み、本を楽しむ会でした。子供たちは大変楽しみにしていました。大勢の親子が参加しました。そして、一人一人にくださった図書券では、子供たちは本を選ぶ楽しさを味わえたことと思います。読書活動推進リーダーの活躍、第100号となるまで書き上げた「読書活動への扉を開く」など、校長先生のアイデアで読書活動をいろいろな角度から見ることができ、子供たちにとって読書が身近なものになりました。2年間、本当にありがとうございました。(本校職員より)

※桑村小学校は、先生の言われるようにとても豊かな自然が多くあり、それらを活かした体験活動を行っています。これは、本校の大きな強みですね。こうした直接体験に「読書活動」のスパイスを加えて、「豊かな感性」の育成に努めてきたのがこの2年間の取組で

す。子供、教職員、保護者、学校運営協議会委員(地域住民)が「豊かな感性」を育むことを協働で取り組んだことは大きな成果となりました。これからも体験活動と読書活動をつないで「豊かな感性」を育む教育活動を持続可能なものへと発展的に実践していきたいと
思います。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

桑村小学校の読書活動には、他に類を見ない素晴らしい特徴があります。それは、単に読書するだけではなく、読書を通じて得た感想や思いを表現することを重視している点です。子供たちは、自分の感情や考えを率直に表現する能力を身につけてきています。今後も、桑村小学校の読書活動の文化を大切に、育んでいきたいと考えています。(本校職員より)

※「感性」を育む教育活動を、学校、家庭、学校運営協議会(地域社会)が協働で推進できたことは大きな成果であると思います。これからも発展的に持続していきたいと考えます。
(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

『読書活動への扉を開く!』100号おめでとうございます。
学校司書とは違った方面から読書活動を広げてくださり、大変心強かったです。図書室の展示コーナーも、変更するたびに気が付いて声をかけていただけたので、やりがいがありました。親子読書の会など、他の学校にはない初めての取り組みも多く、楽しかったです。
これからも、桑村小のみんなが読書を楽しんでいけるよう創意工夫をしていきたい
と思います。ありがとうございました。(本校職員より)

※本校の学校図書館(図書室)は、とても魅力的です。司書さんの工夫がとてもよくされていて、いつも感心させられます。「親子読書の会」では、子供や保護者の選書等の相談に気軽に応じてくれてありがとうございました。また、マルベリーの皆さんによる読み聞かせでもご尽力いただきありがとうございました。(校長より)

これまでの『読書活動の扉を開く』を読んだ感想

家では娘と、学校では1年生と、本当にたくさんの絵本を読みました。絵本には、心に響くあたたかい言葉や自分を勇気づける言葉がたくさんつまっています。私は、こういう言葉に出会えた瞬間、読書の楽しさを感じます。そう言えば、私が小学校1年生の頃、「本は、心の栄養です。」と担任の先生が言っていたことを今でも覚えています。自分の心がいつでもあたたかく元気であるように、これからも本を大切にしていこうと思います。

1年生の子供たちが、この1年間で本が好きになってくれたことが、とても嬉しかったです。休み時間に、クラスの子供たちと本の話で盛り上がり、「読んでみて。」とお気に入りの本を私にかしてくれたり、子供たちと私も読書を楽しみました。休日に知恵の和館に行くと、必ず桑っ子の誰かに会います。みんな、夢中で本を読んでいて、心に栄養たっぷりの1年だったと思います。(本校職員より)

※クラスの子供たちが「お気に入りの本」を展示したり、温かな詩が背面黒板に掲示されたりすることで、「豊かな感性」が育まれてきたように思います。ただ単に教師が「本を読みなさい」では、読書好きにはならないでしょう。そこにはやはり子供に寄り添った仕掛けが必要になります。そして、先生ご自身が町立図書館「知恵の和館」に出向くこともありがたく思います。これからも子供と共に読書を楽しんでください。(校長より)

たくさんの素敵な感想や意見を届けてくださりありがとうございました。この読書通信は、学校と家庭との双方向的な関係性を構築し、協働で読書活動を推進していくことをねらいとしてスタートしました。本校の教育活動に対して、ご理解とご協力いただきましたこと、本当にありがとうございました。

さて、最後に村上慎一氏の『読解力を身につける』(岩波書店 2020年3月)を読んで、氏のコラム4「役に立つ、役に立たない」から強く感じたことを述べたいと思います。
「(前略)別の作家の言葉である。『スポーツしなくても、ゲームしなくても、おいしいもの食べなくても、温泉に入らなくても、ぜんぜん問題なく生きていけるが、けれどそこに

何かべつのことを求めて、それらのことを人はする。そのなかに、本を読むという行為も含まれている。そうして、本を読むのは、そのような行為のなかで、もっとも特殊に個人的であると、私は思っている。そう、だれかと一対一で交際をするほどに』(角田光代『さがしもの』あとがきエッセイ、2008年)。人生は、出会いの連続なのだと思う。人と出会うばかりではない。私たちは本(文学)とも出会い、時に深く付き合うことで人生を豊かにしていくのだと思う。」(P193, 194より引用)

私たちはすぐに「役に立つ」のか「役に立たない」のかで判断していることが多いように思います。この2年間、本校では、学校と家庭、学校運営協議会(地域社会)が協働で読書活動を推進してきました。この読書活動が本校の児童にどのように役に立つのかを短いスパンで明確に説明することは困難であると考えます。しかし、人として大切にすべき「感性」は育成されてきたように思われます。

子供たち一人一人は、自分にとって大切な本と出会い、それぞれが読書体験を味わってきたのではないのでしょうか。

村上氏は、先のコラムを次のように結んでいます。

「誰とも真に出会わない人生は悲しい。どんな本とも真に出会わない人生も悲しい。人間は出会いを求める生き物なのだと思う、たとえそれが役に立たなくとも。」(P194より)

私の大好きな言葉の1つに「一期一会」があります。私は、出会いをとっても大切にしてきました。出会うことは、必然のことなのか、それとも偶然のことなのか、知る由もありません。ただ言えることは、とても素敵なことだということです。

全校児童一人一人に贈った栞には、「『一期一会』すてきな出会いに感謝」と綴りました。

桑っ子の皆さん、ご家族の皆さん、そして、地域の皆さん、この読書通信『読書活動への扉を開く』をご覧くださりありがとうございました。これからも本校では、読書活動を推進し、「豊かな感性」を育んでいきます。

どうかも今後も、応援をよろしくお願いします。ありがとうございました。



【校長手作りの栞】

桑村小学校長 渡邊 衛